

鯉淵学園農業栄養専門学校

2019年度 学校自己評価シート

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

1 教育理念・目的		2.99	教職員による自己評価結果	現状および問題点と改善策
1	1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)		3.23	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマニティーを基調とした、広い視野と科学的な考え方と実践力を育成するという教育理念が明確に定められ教職員が日頃から意識し、学生に向き合っている。 ・鯉淵学園独自のポリシー(3つ)を策定する。畜産コースで学べる技術を明確に外部に示すことが必要である。 ・企業が望む人材育成に必要なカリキュラムとなっているか未確認のため。 ・実情が伴っていない ・3 ポリシー、基本理念、育成人材像等は定められている
	2 学校における職業教育の特色は明確になっているか		3.18	<ul style="list-style-type: none"> ・HP・パンフなどでの確認はもちろんのこと入学前面談で本人だけでなく保護者へも理解いただいている。(見学会・OCなど) ・職業教育を通してどのような人材を育てるのか学校内で統一されていない。 ・企業連携を通じ明確化を推進すべき ・アグリ科は自由度が高いので教育の特色をさらに明確にする
	3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか		2.82	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢や業界の動向を見ながら学科やカリキュラムの見直しを行い、教育内容の改善を図っている。 ・社会のニーズを全く把握していない→受験生の減少の一因になっている。 ・担当レベルの中長期構想が明確でなく、ニーズを踏まえた構想が必要。 ・外にアピールできる形で表現されていない ・農業者育成のニーズを把握しきれていない ・学校の将来構想は検討済みである ・外部評価等について令和元年より実施予定。
	4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか		2.77	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育理念は学生便覧などで新入学ガイダンスにて全入学生に向けに周知し、保護者については3者面談来校時やHPでも確認できるようにしている。 ・学生・関係業界・保護者はもとより、教員間(常勤、非常勤)でも周知されているとは言い難い。 ・HP公開などの準備すらできていなかった。準備中。 ・それなりに発信されていると思うが周知まで至っていないと感じる ・入学式時に周知するが、断続的な物はない ・関係業界以外には、積極的に周知されていない ・十分に周知されているとは言えない。公表方法等について検討する。
	5 各学科の教育目標、育成人材像は、		2.95	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成委員会を近日中に開催し、いただける声を参考にし、また業界団体の会合

	学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか		<p>に積極的に教職員を参加させることで情報をいち早く察知し、対応できるようにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員は業界のニーズをある程度把握しているとしても、学科として方向づけられているとは言い難い。 ・業界ニーズの確認ができていないので、方向づけているという自己満足。 ・2年間では不足 ・業界ニーズの把握ができていないのではないか。
--	------------------------------	--	--

2 学校運営		2.97	教職員による自己評価結果	現状および問題点と改善策
2	1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.05	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期計画の元、年次見直しすることで現在の状況に対応している。 ・教育の後回し感がある ・策定されているのかもしれないが、周知徹底不足。
	2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3.10	<ul style="list-style-type: none"> ・年度ごとの事業計画を全体会議で周知し、状況に応じて見直しを行っている。 ・各グループの計画が運営方針に沿っているのか、確認不足。
	3	運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	2.95	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営組織だけでなく他組織(研修・農場)を内包しているため、今後も横のつながりで情報の共有が必要である。 ・複雑であるが機能していると思う ・古い規則等に縛られ過ぎ有効に機能しているとは言えない。規則等の改訂。 ・兼務が多く意思決定が明瞭でない部分もある ・規程等はあるが、各会議の趣旨、指揮系統が曖昧なため有効に機能していない。
	4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	3.21	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則に遵い運営されている。希望者への開示など今後検討すべき。 ・規定は整備されているが実情は違っている ・役職、職階、級職、勤続年数など複数の考え方があるが、時代に即していない。改廃。 ・規程はあるが、実務処理ルールが不足している
	5	教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	3.05	<ul style="list-style-type: none"> ・年度はじめに組織表や内部委員会や業務担当者を明らかにし、必要に応じて年度途中でも見直しを行っている。 ・各会議の位置づけに関する認識差がある。 ・組織整備できているが、組織の存在意義など明確でない。
	6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	2.89	<ul style="list-style-type: none"> ・学内規程規則・倫理・社会常識の最低レベルで自発的取り組みを行っている。 ・目に見えない部分あり ・規程等は内向きであり、外部向けに文言改訂が必要。 ・コンプライアンスに係る規程が未整備
	7	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	2.85	<ul style="list-style-type: none"> ・本校 HP や SNS を通して定期的または必要に応じて公開しているまた入学案内書やポスターなどでも公開している

			<ul style="list-style-type: none"> ・公開不足 ・一時中止していた教育研究報告の発刊を通じた公開。 ・より積極的に公開する必要がある ・HP などのアピールが十分でない
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.68	<ul style="list-style-type: none"> 個々のスキルは別として、組織的に情報システムを活用できていない。 ・個別に対応しており、組織としてシステム化できていない。 ・やや不足 ・メール等 ・個別のシステム化は図られているが、連携面での効率化まで進んでいない。 ・ワークフローの導入情報共有が不足

3 教育活動		2.98	教職員による自己評価結果	現状および問題点と改善策
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.14	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念や各学科の教育目標に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されている。 ・実施方針の策定 ・教育理念に沿って教育課程が編成されている 	
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	2.91	<ul style="list-style-type: none"> ・年限の不足 ・業界のニーズに合っているかの確認ができていないため。 ・業界ニーズに対応すべく年度見直しや科目に自由度をもたせ最新技術の特別講義など実施している ・2 年の修業年限を考えると、不必要な科目(体育など)を整理すべき。 ・2 年生では習得が難しいのでは？プロジェクト学習を質の高いものにしては。 ・教育達成レベルはディプロマポリシー、学習時間はカリキュラムに示してある 	
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.23	<ul style="list-style-type: none"> ・学科会議を毎月実施し、教員からの意見・要望から年度カリキュラム見直しを行っている ・体系的には編成されているのであろう。 ・カリキュラムは学科・コース、それぞれの教育目標に沿った形で編成されている 	
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視	3.05	<ul style="list-style-type: none"> ・努力しているが足りない ・実習では労働力の提供が主で、学生が主体 	

	点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか		的に実施する体制になっていない。 ・今後開催される教育課程編成委員会で生きた声をいただき反映させていく ・実習を重視した形での職業教育を行うためのカリキュラムが組まれている
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	2.81	・例えば、瑞穂農場と連携しているのは一部の教員で、組織として外部機関と連携したカリキュラム編成が行われていない。 ・連携による作成・見直しのための準備中と思われる。 ・カリキュラムは今年より企業や業界団体との連携で見直しを行う ・現時点ではほぼない ・外部評価等について令和元年より実施予定。
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3.24	・5 項の作成・見直し後、実践的な職業教育体系の構築を図られると思われる。 ・学科ごとに企業等と連携した実習を行っており、実践的な職業教育に触れているが、体系的であるかどうかは科やコースによって異なる。 ・インターンシップ、実習を体系的にカリキュラムに位置付けている
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.18	・授業評価システム活用（学生・同僚・観察者等） ・教員の授業改善努力に結びついているとは言い難い。評価項目が漠然とし過ぎている。 ・実施はしているが、結果は内部公表のみであり、評価につなげていない。 ・授業評価は実施しているがその評価は行っていない
8	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	2.53	・何処までが外部関係者か良くわからない ・おそらくそういう制度はないと思う ・現状、評議員からの評価しか受入れていない。外部評価委員会の設置準備中と思われる。 ・外部評価の取り入れは不十分と感じる ・今年から教育課程編成委員会を実施する ・外部評価等について令和元年より実施予定。
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.20	・やや曖昧だった基準の明確化のため、規程の改定。 ・成績評価や卒業基準は学生便覧を配布して周知は十分と考える。今回改訂するので変更箇所をWEB や配布物で分かりやすく伝える必要がある。 ・現在、改訂中である。 ・成績評価規定等に明確化してある
10	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.15	・不足 ・体制の見直しを図ることで、資格取得率向上を図るべき。 ・一度チャレンジし落ちた学生へのフォローと再チャレンジを促す指導が弱い。 ・指導体制はとっており、カリキュラムに位置付けている
11	人材育成目標の達成に向け授業を行	3.00	・各教員は人材育成という意識を持っていても、知識の伝達に終わっている場合が多いの

		うことができる要件を備えた教員を確保しているか		<ul style="list-style-type: none"> ではないか ・要件の整備が必要だが、教育力向上の為の人材確保は進めている。 ・教員として必要な資質を持つ教員の確保を行っている ・人材の補強が必要
	12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3.10	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城県には農研機構と産総研等(つくば市)、筑波大学、茨城大学があるので、それらとの連携を模索できるはずだが、組織としては全く機能していない。前項とも関連するが、教員給与の見直しが絶対的に必要。例えば、定年退職された農研機構職員は再雇用される場合、当学園の嘱託教員の給与に比べて大幅に高い。 ・マネジメントスキルを有する職員の確保が必要。 ・業界等との連携をもとに教員の確保が行われている
	13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	2.77	<ul style="list-style-type: none"> ・機会はあるが、生かされていない ・研修会に参加はしているが、活用できていないこともある。情報の共有を行い、活用していく ・常勤教職員数が少ないために、そのような余裕がないのではないか？ ・組織的に指導力育成プログラムに関する情報収集が必要。 ・一部取組はあるものの対応は不十分 ・かつて、科会議で議論したことがあるが、取組実施までには至っていない。 ・先端技術などを習得する研修会や講習会などに参加している。
3	14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	2.50	<ul style="list-style-type: none"> ・能力開発のセミナーが行うか勉強会を行う。 ・機会はあるが、生かされていない。 ・常勤教職員数が少ないために、そのような余裕がないのではないか？ ・SD に係る内向の研修のみであり、外に向けた、又は、外からの研修はない。 ・一部取組はあるものの対応は不十分 ・通常業務に追われスキル向上の機会が少ないような気がする。 ・研修規程、システムはあるが、計画的には行われてはいない。積極的に利用する ・教員の研修等は行われているが、職員の研修は十分ではない。

4 学修成果		2.98	教職員による自己評価結果	現状および問題点と改善策
4	1	就職率の向上が図られているか	3.27	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、学生まかせの感が強い。 ・毎年、ほぼ 100% ・目標を立て達成できるように努力している ・就職に対する意識が低く、活動はじめが遅い。

				<ul style="list-style-type: none"> ・1年次より、就職活動に関する講座を開き、活動意欲を出させる。就職活動履歴書の書き方、面接練習等を授業に組み込み個人にあった就職支援を実施する。
2	資格取得率の向上が図られているか	3.14		<ul style="list-style-type: none"> ・取得したい資格なのか検討が必要かと思う。 ・農業系の資格をPRしきれていない。 ・目標を立て達成できるように努力している ・特に耕種作物を希望している学生は資格取得への意欲が低いように感じる。卒業後持つておくべき資格や使える資格についての提案を積極的に行う。
3	退学率の低減が図られているか	2.91		<ul style="list-style-type: none"> ・どの辺りまでかはっきりしない ・結果的に低いだけで、そのような事態が起こった際の積極的な対応について学園としての対策が練られているとは思えない ・退学率の推移は不明。担任業務の明確化と、担任負担の軽減。 ・今後とも担任制や少人数など面倒見の良さをPRするためにはしっかり取り組まなければいけない。 ・学生生活に問題がないか、常に担任等がチェックしている
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.91		<ul style="list-style-type: none"> ・一部のみ ・特に卒業生の活躍・評価については、入学希望者数とも連動することから積極的な対応を検討すべき。 ・結果的に低いだけで、そのような事態が起こった際の積極的な対応について学園としての対策が練られているとは思えない。 ・各種 SNS を通じた把握くらいか ・活躍及び評価を吸い上げる仕組みができていない ・卒業生の社会的な状態については一部しか把握できていない。できるだけ情報収集する
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2.67		<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生との連絡が不十分 ・一部のみ ・若い卒業生の経験談を在校生に聴かせる「キャリア形成概論」のような科目を必修としてカリキュラムに入れることを検討する ・在学時の教育に関するアンケート等を卒業生に実施。卒業1年、3年など同一人物に対するアンケートが良いと感じる。 ・卒業生へのフォローが弱いと感じる。 ・卒業後のキャリア形成派の効果を把握しきれていない ・卒業生の講演を頻繁に実施すべき。

5 学生支援		2.81	教職員による自己評価結果	現状および問題点と改善策
5	1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか		3.05	<ul style="list-style-type: none"> ・専任がない ・教員が主体の体制であり、講義対応時の相談がしにくい。担任=教員、進路情報収集などの支援=職員など分けるべき。 ・個別対応である場合が多く、情報が共有されていない。学生がどのような就職先を希望して

			いるのか、就職活動の進捗状況が見えるようになれば、多くの職員で支援できるのではないか。
2	学生相談に関する体制は整備されているか	3.05	<ul style="list-style-type: none"> ・各々個人が対応 ・クラス担任、プロジェクト学習指導教員、研究室などが対応している
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.27	<ul style="list-style-type: none"> ・友部駅から本校までの通学バスの運賃半額負担、特待生(授業料半額免除)、本校オリジナル奨学金などの経済的な支援制度を整備している。 ・学園の奨学金がある
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.90	<ul style="list-style-type: none"> ・朝昼夕 3 食提供できる食堂を早急に整備すべき。 ・健康管理に係る指導体制はいまひとつ機能していない。 ・年一の健康診断、月一カウンセリング実施している。 ・保健室はあるが、更に整備する ・専任者が不在
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.80	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の範囲が不明確 ・行っても良い、という程度で支援とは呼べない。研修支援制度の存在を、大きくアピールすると共に、条件の緩和を図るべき ・課外活動ができない状態なので、積極的に参加できるシステムを検討する ・施設がやや古い課外活動支援する要因が不足
6	学生の生活環境への支援は行われているか	2.82	<ul style="list-style-type: none"> ・朝昼夕 3 食提供できる食堂を早急に整備すべき。 ・低予算の中で、最大値に近い支援を行う努力はしているが、説明不足。「金がない」といった説明は×で、説明責任を果たすべき。 ・学生寮の満足度を上げていかなければいけない。 ・寮生活への配慮が必要 ・現在の本校の経済状況考えると、生活環境に整備投資して満足度上げるより、学生にとって必要・不要の優先順位を考え、設備の整理を行った方が良いのでは。
7	保護者と適切に連携しているか	2.95	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な物が少ない ・本人の自主性を尊重しすぎ、保護者との連携が後手になりがち。 ・学生に問題があれば保護者にはすぐに連絡している。期末毎に担任からお便りを送っている。
8	卒業生への支援体制はあるか	2.63	<ul style="list-style-type: none"> ・無いが、個人的におこなっている ・具体的にどのような支援が出来るのか、リサーチ必要。 ・フォロー体制は弱いと感じる ・同窓会を組織し年1回の会報発行し、現在の学校の状況は情報提供している。 ・ほとんどなし。これをどのように構築するか、今後の課題である。 ・キャリア教育チームで情報を収集し相談にのっている ・転職等の情報は一部で(受動的に)実施する程度。

9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.70	<ul style="list-style-type: none"> ・土、日の対応ができていない ・保育施設、通学の利便性等、社会人ニーズの把握を図っていない。リサーチ必要。 ・一応対応しているが、設備的に不十分と感じる ・研修棟の方々が中心になり行われている。 ・特に用意していない保育所が必要？
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2.47	<ul style="list-style-type: none"> ・高校側の教育に効果がある連携のみ。本学の学生への効果があるか、検討が必要。 ・不十分に感じる ・オープンキャンパスや学校見学会のように一方的に本校の PR はする機械はあるが、高校生参加型は無い。 ほとんど取り組まれていない ・行われていない(本校の評価基準として必要か疑問)。
11	関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか	2.24	<ul style="list-style-type: none"> ・表だって目にしない ・どのような連携と再教育プログラムが必要か、検討が必要 ・行っていない。どのように実施するか、想像できない。今後の課題である ・卒業生の再教育については研究科を設けているが、目標をより明確にする必要がある。 ・ほとんど取り組まれていない ・令和元年度からの外部評価を実施した後、検討が可能か。

6 教育環境		3.00	教職員による自己評価結果	現状および問題点と改善策
6	1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2.50	<ul style="list-style-type: none"> ・年数経過により不十分 ・定員の入学があった場合、いろいろなところではころびが出てくると思う。 ・老朽化が進み過ぎ、十分にに対応できる整備とは言えない。必要性の明確化推進。 ・施設老朽化で整備不十分計画的な整備の継続必要 ・教育設備の更新が必要では、年度計画を整備しては。 ・全部の教室にパソコンとプロジェクターを設置する ・施設、設備の老朽化が進んでいる。 ・古い建物が多い。現状のままでも使用できるが、改修を検討する ・老朽化が進んでいるため投資が必要。 ・老朽化への対応が不十分
	2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	2.95	<ul style="list-style-type: none"> ・制度はあるが、不十分 ・少なくとも国内での実習、インターンシップ実施場所を選定し、協定を結ぶ必要がある。 ・海外研修、インターンに関する周知が十分とは言えない ・海外研修については不十分

				・実習、インターンシップについて教育体制は整備されている
3	防災に対する体制は整備されているか	2.68		<ul style="list-style-type: none"> ・取組が少ない ・整備されているかと問われると、不十分と言わざるを得ない。 ・連絡網等、退職された教職員の連絡先が残ったまま。個人情報保護の観点からも1以外ない。 ・防災倉庫の設置などが必要では？ ・災害時の防災マニュアルを、早急に改訂するべき。 ・マニュアルはあるが毎年訓練が必要である ・避難経路の案内など表示が必要
4	実習施設について衛生観念の教育を実施している	3.29		<ul style="list-style-type: none"> ・特に調理実習室の老朽化があり、雨漏りや害虫の侵入がある。修繕が必要。 ・農場のバイオセキュリティーについては、根本から見直すべき ・農と食の学校として、互いの衛生観念の違いについても教育している。 ・食品衛生の面から衛生観念教育をしている
5	学生の図書館や情報処理室の積極的利用を勧めているか	3.00		<ul style="list-style-type: none"> ・現状を見る限り、学生が自主的、積極的に利用しているとは思えない。休日・時間外の利用をセキュリティーの問題も含め検討してみるのも一案。 ・図書館の本は最新のものではない ・もっと勧めてあげる。図書館にある本で使ってレポートを書く等 ・これらの利用をもっと勧める。利用しやすいシステムを検討する

7 学生の受入れ募集		3.13	教職員による自己評価結果	現状および問題点と改善策
7	1	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	3.00	<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会等呼ばれた高校へ出向いて説明くらいであり、本学入学者数が伸びるかわからない。 ・高校訪問等で情報を伝えているはず。 ・十分な取組みを行っているとはいえず、色々な機会を利用すべきである。 ・HP等の情報公開が不足
	2	学生募集活動は、適正に行われているか	3.09	<ul style="list-style-type: none"> ・専任がいらない ・営業としての意識付け不足複数回訪問必要 ・今の18歳に響かない募集活動の面もあるから、応募が伸びないのかもしれない。 ・高校訪問等で情報を伝えているはず。 ・学校の“売り”を用意する必要あり。職員が学生募集の目標をもって募集活動をすべきである。 ・戦略性に欠け場当たりの活動 ・活動は適正に行っていると思うが、学生が定員を満たしていないことを考えると、今の活動の仕方では不十分であると考え。学生獲得につながる学生募集の方法を知りたい。

	3	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3.32	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得状況、就職状況については高校関係者に対して明確に伝えている ・学科によって違いがある、国家資格(栄養士)に対して農業検定では比較にならない。検定以外の魅力の創出が急務
	4	学生納付金は妥当なものとなっているか	3.10	<ul style="list-style-type: none"> ・県農大との比較では不利。できれば再検討する ・2019年度より入学検定料29000円から20000円に変更したが、遅きに失している。

8 財務		2.76	教職員による自己評価結果	現状および問題点と改善策
8	1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	1.81	<ul style="list-style-type: none"> ・財政は赤字 ・安定どころか、借金までした ・部門レベルでの中長期計画も必要と感じる。 ・入学生減少が続く財務基盤が非常に弱い財部基盤強化策？ ・入学生数低下により収入が減少している ・学生数に依存するため不安定であり、安定的に学生を確保するためにどうするのかを検討 ・学生数減少から厳しい見通し ・財政が厳しいときいているので安定しているとは評価できない ・短期的には支援により安定しているが、中長期プランを策定すべき。
	2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.44	<ul style="list-style-type: none"> ・見込みと大幅に食い違う部分あり ・一案のみの計画ゆえ、それが妥当であるか判断しがたい。 ・入学生減少で赤字計画を策定せざるを得ない現状事業の縮小、体制縮小策 ・財政が厳しいことを考えると評価できない ・赤字体質からの脱却を早急に図るべき(赤字の原因を明確化すべき)。
	3	財務について会計監査が適正に行われているか	3.59	<ul style="list-style-type: none"> ・会計監査においては監査法人に依頼し、年間2回実施している。指摘事項があった場合は適切に是正措置を講じている
	4	財務情報公開の体制整備はできているか	3.19	<ul style="list-style-type: none"> ・母集団である公益財団法人農民教育協会として毎年財務諸表等つくり理事会の承認を得て公開している。

9 法令等の遵守		2.68	教職員による自己評価結果	現状および問題点と改善策
9	1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.33	<ul style="list-style-type: none"> ・法令順守は徹底している ・法令や設置基準については設置基準者が把握し遵守している。国や県からの連絡、通達については管理職複数名で確認し、関係部署と連携し情報の共有に努めている。
	2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.12	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護に関する内規の改定・周知・徹底 ・個人情報保護規程がないので、準備する必

				要がある。
	3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	2.27	<ul style="list-style-type: none"> ・行っているとは言い難い。 ・今回が初めての自己評価であり、改善を目指す ・体制はあるが十分運用されていない ・自己評価について令和元年より実施予定。
	4	自己評価結果を公開しているか	2.00	<ul style="list-style-type: none"> ・これから公開する ・今年度より実施する ・如何なる結果でも、正直に公開。厳しき意見を受け入れ、改善につなげる。 ・公開していないのが実態。だからといって「即公開」は反対。もう少し、議論を詰めてから公開すべき ・今回が初めての自己評価であり、公開する予定 ・自己評価について令和元年より実施予定。

10 社会貢献・地域貢献		3.21	教職員による自己評価結果	現状および問題点と改善策
10	1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.15	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的には不足していると思う ・幼稚園や小学生向けの農業体験等の実施はあるが、高校生向けの働きかけは弱い。また、社会人向けの企画があれば話題性はあると思う。
	2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.19	<ul style="list-style-type: none"> ・足りていない ・ボランティア活動は、授業の一環として認定できるので奨励している
	3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3.29	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への公開講座は今後か ・茨城県農業アカデミーの委託事業の実施を本校情報処理室で実施している。

11 国際交流		3.15		現状および問題点と改善策
11	1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3.39	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな農業教育のために国際交流を行っている ・まだ卒業生を輩出していないので、就労の実績を積み上げなければいけない。
	2	受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3.44	<ul style="list-style-type: none"> ・協定等を結び、受け入れている ・留学生の受け入れ段階での労働時間チェック、在籍時のチェックなど今後取り組むべき課題を抽出している。
	3	留学生の学習・生活指導等について学内の適切な体制が整備されているか	2.89	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人学生との違いがあるから、これから平等にする ・その都度対応している ・生活面で、喫煙のマナーが守れていない。指導の徹底が必要。 ・留学生受け入れマニュアルに従い組織立った生活指導等を行っている ・教職員は配置されているが、業務分担・責任が明確化されていない。

	4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2.88	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的になっていない ・国際農業コース留学性の学習成果発表会を開催 ・タイ王国教育省とのダブルディグリーを進めると良いのか。
--	---------------------------	------	---